

平成30年度 JA共済総研セミナー開催報告

農業と福祉の連携（農福連携）による 新たな共生と地域コミュニティの創出 ～多様性を受容する社会を目指して～

平成31年3月8日（金）、JA共済ビル・カンファレンスホール（東京都千代田区）にて「JA共済総研セミナー」を開催いたしました。本セミナーでは初めて「農福連携」をテーマに掲げました。前日に開催された「第28回JA全国大会」でも農福連携が決議に記される等、今後の拡がりが期待されるなか、登壇者を含め167名もの皆様にご来場いただき、充実したセミナーとなりました。ご参加の皆様には心より御礼申し上げます。

当日は、開会挨拶の後、ご来賓の末松農林水産事務次官よりご挨拶を賜りました。農福連携に関する情勢報告、行政庁および実践者による報告に続き、報告を行った実践者、そして当事者にご登壇いただきシンポジウムを行いました。以下は本セミナーの概要報告として、それぞれの発言要旨をご案内します。

1. 情勢報告（当研究所・濱田主任研究員）

「農福連携」の背景には、農業における労働力不足と障害者の新たな就労の場の開拓という課題があります。農福連携のパターンとしては、①社会福祉法人等による農業生産、②農業生産者による直接雇用、③農業生産者による社会福祉法人等への農作業委託等があり、地域、障害者、障害福祉サービス事業所、農業生産者にメリットを産み出しています。

近年は障害者に限らず、生活困窮者、高齢者、引きこもり者なども対象となってきています。さらに業種も農業に限らず、水産業、林業、商業、工業にまで広がる可能性も見えてきています。農福連携は地域貢献の側面だけでなく、実践の積み重ねにより、将来的には多様性を受容する社会に移行する可能性を秘めています。

2. 行政報告

(1) 農業サイドの施策（農林水産省・富所康広課長補佐）

農林水産省における農福連携の取組みとして、平成29年度から実施している支援制度「農

山漁村振興交付金（農福連携対策）」は、施設整備、就労支援、人材育成、普及啓発といった側面から、社会福祉法人等が福祉農園を整備するための支援や、農業経営体が障害者等を受け入れるための支援を行うものです。

(2) 福祉サイドの施策（厚生労働省・石井悠久課長補佐）

厚生労働省における農福連携の取組みとして、「農福連携による障害者の就労促進プロジェクト」は、主に都道府県を実施主体とし、障害者就労施設への農業に関する専門家の派遣や、農福連携マルシェ開催などを支援する事業です。また「工賃向上計画」を掲げ、障害者の就労機会の拡大にも取り組んでいます。

農福連携については、農林水産省と厚生労働省は強いタッグを組んでいます。このため、何か相談があれば、地方自治体の農業担当でも厚生担当でもお問い合わせください。厚生労働省又は農林水産省にお問い合わせいただいてもかまわない。必ず連携して対応します。



シンポジウム

3. 事例報告

(1) 福祉サイドの取組み（社会福祉法人白鳩会・中村邦子常務理事）

社会福祉法人と農事組合法人が連携した大規模農業への挑戦と、アンテナショップ等を通じた6次産業化の実践について報告します。農事組合法人には22名が雇用され、うち6名が障害者です。「障害者が携わるもの」であることをPRするのではなく「良いもの」を生産し消費者に届けることが重要と考えます。

(2) 農業サイドの取組み（株式会社京丸園・鈴木厚志代表取締役）

「笑顔創造」を経営理念に掲げる京丸園では、農業を通じた働き場の場づくりとして「ユニバーサル農業」を実践しています。契機となったのは、障害を持つある一人の生徒との出逢いであり、今日につながるアイデアが生まれました（なお鈴木代表取締役はこれまでの実践が評価され、「第48回日本農業賞」個人経営の部で大賞の栄冠に輝き、翌日NHKホールにおいて表彰されました）。

(3) 農業・福祉をつなぐ取組み（特定非営利活動法人香川県社会就労センター・阿部隆弘コーディネーター）

繁忙期に人手が必要な農業者と、社会参加の場を求める障害者福祉施設とその利用者との懸け橋としての役割についてご報告します。工賃向上を目指し、共同受注農作業システムの構築や県・JAとの連携など、天候等に左右されるなかでのマッチングは難しい面があります。

4. シンポジウム

事例報告者のお三方には実践者としての苦勞を語っていただくとともに、会場からの質問にお答えいただきました。シンポジウムの後半では、白鳩会の授産施設「花の木ファーム」で働く当事者（障害者）の方々も登壇し、「ここ（白鳩会）で学んだことを生かして、将来、農場を開きたい。」とご自身の将来を見据えた発言がありました。農福連携の実践を通じて当事者の就労意欲が高められている様子をうかがうことができました。

※ 詳細につきましては、本誌次号等に講演録を掲載する予定です。ご期待ください。